



日本語と中国語の比較に関わる程度副詞の分類について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 陳, 建明 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004340

日本語と中国の比較に関わる程度副詞の 分類について

陳 建 明

1 はじめに

日本語の程度副詞も中国語の程度副詞も比較に関わるかどうかによって、比較に関わる程度副詞と比較に関わらない程度副詞の二種類に大きくわけることができる¹。特に前者は日本語においても中国語においても大変重要な役割を果たすと考えられている。

周知のように、日本語と中国語には、英語のように比較級がないので、比較を表す場合、比較に関わる程度副詞しか用いられない。よって、日本語と中国語の比較に関わる程度副詞の対照研究は日本語と中国語の相違だけではなく、日本語、中国語と英語との相違を突き止めることにも貢献できると考えられる。

さて、一見意味用法が近似している日本語と中国語における比較に関わる程度副詞を比較対照するためにまず一定の基準で統一的に分類する必要がある。しかし、これまでは日本語と中国語の比較に関わる程度副詞を合理的に分類した研究は管見のかがりまだない。したがって、本稿では、先行研究の成果を踏まえ、共通の基準で日本語と中国語の比較に関わる程度副詞の分類を行う。

2 先行研究

この節では日本語と中国語における比較に関わる程度副詞の分類に関する研究を検討し、両言語の比較に関わる程度副詞を統一的に分類するのに適するかどうかという視点も兼ねて各研究の問題点を指摘する。

2.1 では、日本語の比較に関わる程度副詞の分類についての先行研究、2.2 では、中国語の比較に関わる程度副詞についての先行研究、2.3 では、日本語と中国語における程度副

1 比較に関わる程度副詞と比較に関わらない程度副詞はそれぞれ日本語の場合、渡辺実(1990)が述べている「比較系」程度副詞と「発見系」程度副詞、中国語の場合、王力(1954)、张道生(2000)が述べている「相対的程度副詞」と「絶対的程度副詞」に相当する。

詞の対照研究を行った時衛国(2009)を検討する。

2.1 日本語の比較に関わる程度副詞の分類についての研究

日本語の比較に関わる程度副詞の分類に関する先行研究は数多くある。ここでは、本研究に直接に関わっている研究として渡辺実(1990)、佐野由紀子(1998)、仁田義雄(2002)等を取り上げて概観しておく。

渡辺実(1990)は程度副詞を体系的に把握するため、まず比較構文(XはYより<程度副詞>A)に立つか、計量構文(Xは<程度副詞>A)に立つかによって、程度副詞を「比較系」と「発見系」に分けている。その上で、判断構造・評価・表現性・量の大小という四つの基準を設定することによって、「比較系」を「もっと」類と「多少」類に分類し、「発見系」を「とても」類と「結構」類に分類している。「比較系」程度副詞に属する語例は以下のように挙げられている。

「もっと」類 ずっと、よほど、いっそう、遙かに、いちだんと

「多少」類 すこし、ちょっと、やや、いささか、かなり

渡辺実(1990)はそれまでになかった新しい分類を行い、しかも程度副詞の意味的・構文的性格等について周な記述をし、程度副詞の研究に大きく貢献したと言える。むろん氏の論文ではさらに検討する問題点があるが²、ここで指摘したいのは「もっと」類には性質の違う程度副詞が混ざっており、さらに細かく分類する必要があるということである。この点については佐野由紀子(1998)も触れている。

佐野由紀子(1998)は渡辺実(1990)が分類した「もっと」類をさらに「もっと」類と「ずっと」類に分類することによって、比較に関わる程度副詞を「もっと」類・「ずっと」類・「多少」類の三つに分類した。佐野由紀子(1998)は比較に関わる程度副詞をさらに細かく分類し、その類の程度副詞の基本的な特徴を明らかにしているのも、高く評価されるべきである。本稿の分類は氏の研究に負うところが大きい。ただし、佐野由紀子(1998)では、比較に関わる程度副詞の一部だけが取り扱われている。たとえば、最上級を表す「最も」「一番」を網羅せず、2語の比較に関わる程度副詞における位置づけを明示しなかったという不備などがある。また、後述するように日本語と中国語の比較に関わる程度副詞を比較するために、「多少」類程度副詞はさらに下位分類する必要がある。

仁田義雄(2002)は文法的な働き方や共起する述語のタイプから、「程度量の副詞」を「程度副詞」(とても、ずいぶんなど)と「量の副詞」(たくさん、たっぷりなど)と「概略・

2 詳しくは時衛国(2005:34)を参照されたい。

概括的な程度量の副詞（ほぼ、ほとんどなど）に分け、さらに「程度の副詞」を「純粹程度の副詞」（とても、非常になど）と「量程度の副詞」（よほど、ずいぶんなど）に分けている。仁田義雄（2002）は程度副詞の体系をたてたが、ただし、「程度」と「量」だけによる分類のために、下位分類には色々と性質が異なるものが混ざり合っている。例えば、「純粹程度の副詞」に「とても」「一番」「もっと」のような性質も使い方も完全に異なるものが入っている。

2.2 中国語の比較に関わる程度副詞の分類についての研究

ここでは主に馬真（1988）、張誼生（2000）等の研究を検討しておく。

馬真（1988）は中国語の代表的な程度副詞を取り上げ、六つの文型において生起できるかどうか、程度の大小という二つの基準によって、比較に関わる程度副詞を「最」類、「更」類、「比较」類と「稍微」類に分類している。氏の考察は程度副詞の機能から各種類の程度副詞の比較及び比較構文に用いられるかどうかを明らかにしたことで、大変有意義な研究であると思われる。ただし、中国語の文型よっての分類のため、日本語と中国語の程度副詞を統一的に分類するのに当てはまらなないと考えられる。

張誼生（2000）は明確な比較対象があるかどうかによって程度副詞を「相対的程度副詞」「絶対的程度副詞」に分け、さらに程度副詞の程度の大小及びそれぞれの特徴によって「相対的程度副詞」を「最」類・「更」類・「稍」類に分けている。張誼生（2000）は新しい基準で中国語の程度副詞を細かく分類している点で、評価されるべきである。ただし、氏の考察対象とした比較に関わる程度副詞が一部の程度副詞に限られているため、比較に関わる程度副詞全体を分類するにはさらに下位分類する必要がある。

2.3 時衛国（2009）の日中の比較に関わる程度副詞の分類

時衛国（2009）は「比較を特定するかしないか」という基準により、中国語と日本語の程度副詞を分類している。

特定の比較を示すもの

中国語：最、頂、更、还、尤其、越发、愈加、日益、再、较、比较、较比、尚
日本語：最も、一番、一等、さらに、もっと、だいたい、ますます、一層、より、
よほど、よけい（に）、わりと、わりに、割合（に）、比較的、まあまあ
非特定の比較と特定の比較を共に示すもの

中国語：稍微、稍稍、稍、稍许、略微、略略、略、多少、有点、微微、些微
日本語：かなり、少し、少々、ちょっと、いささか、ちよっぴり、やや、心持、

多少、いくらか、幾分、若干

(下線を引いているのは考察語である。(下線は原文の引用である。))

氏の程度副詞の分類は問題がないとは言えない。例えば、「特定の比較を示すもの」に分類された“最”、“更”、“尤其”と“比较”はそれぞれ性質がまったく異なるため、この分類をさらに分類する必要がある。

3 本研究における比較に関わる程度副詞の分類

この節では、共通の基準で日本語と中国語の比較に関わる程度副詞の分類を行う。まず比較項の数により、比較に関わる程度副詞を「多項型」「二項型」「兼用型」の三種類に分け、次に、最高級を表すかどうかによって、「多項型」程度副詞を「最高級」類「非最高級」類に分け、二つの比較の対象が基準 N³ の同じ側に現れる必要があるかどうかによって、「二項型」程度副詞を「程度増加型」「程度差強調型」に、量性有無によって、「兼用型」程度副詞を「純粹程度副詞」「量程度副詞」に分け、日本語と中国語における比較に関わる程度副詞を体系的に分類する。

なお、日本語と中国語における程度副詞をできる限り網羅するために、日本語の程度副詞を『例解新国語辞典 第六版』から、中国語の程度副詞を『クラウン中日辞典』から抽出した。また、本研究は「たくさん」「大勢」「いっぱい」「たっぷり」「全部」「大部分」「大多数」等のような「量の副詞」と「程度副詞」を区別して考えているので、「量の副詞」を除外した。

3.1 比較項の数による比較に関わる程度副詞の分類

日本語と中国語における比較に関わる程度副詞は比較項の数でグルーピングすれば、以下のように分類することができる。

① 「多項型」程度副詞

日本語 最も 一番 ひときわ ひとしお とりわけ

中国語 頂 最 尤其 格外

② 「二項型」程度副詞

日本語 いちだんと いっそう かなり ことさら さらに 十分 ずいぶん 数段
数等 ずっと 相当 だいぶ 大層 なお なおさら 遥かに もっと
より よほど

3 基準 N について詳しくは後述する。

中国語 倍加 大大 大为 更 更加 更为 还₁ 相当 益发 愈加 愈益 越
越 加 越发 再

③ 「兼用型」程度副詞

日本語 若干 少々 すこし 多少 ちょっと ちょっぴり 比較的 やや 割合に
わりと(に)

中国語 比较 多少 还₂ 较 较为 略 略微 稍 稍稍 稍微 稍许 微微 相对
些微

「多項型」程度副詞は必ず三項以上の比較を表す比較構文に用いられ、二項の比較を表す比較構文「XはYより(程度副詞)A」には用いられない。この構文的な特徴は他の比較に関わる程度副詞と大きく異なっている。「多項型」程度副詞は程度が三つ以上の比較対象を前提として、その中の一つを取り上げて、それが比較対象の中できわめて程度が高いまたは最高程度であることを強調する意味役割を果たす。

「二項型」程度副詞は必ず二項の比較を表す比較構文にのみ用いられる。表す程度の大きさは「多項型」程度副詞より小さく、「兼用型」程度副詞より大きい。

「兼用型」程度副詞は数量や程度が少ない様子を表す副詞であり、二者のみ或いは三者以上の比較を表す比較構文に用いられる。

3.2 「多項型」・「二項型」・「兼用型」程度副詞のさらなる分類

3.2.1 「多項型」程度副詞の下位分類

上に挙げた「多項型」程度副詞からわかるようにこの類の程度副詞には性質が異なるものが混ざり合っているため、さらに下位分類する必要がある。ここでは、程度が最高であるかどうかによって、「多項型」程度副詞を「最高級類」程度副詞と「非最高級類」程度副詞に分けることができる。それぞれに属する程度副詞は以下のとおりである。

「最高級類」程度副詞

日本語 最も 一番

中国語 頂 最

「非最高級類」程度副詞

日本語 ひときわ ひとしお とりわけ

中国語 尤其 格外

日本語の「最も」「一番」と中国語の「頂」「最」はともに比較対象の中で程度が最高であることを表すのに対し、日本語の「ひときわ」「ひとしお」「とりわけ」と中国語の「尤其」「格外」は他の比較対象と比べ、程度が極めて高いという意味を表す。

3. 2.2 「二項型」程度副詞の下位分類

八亀裕美(2007)は「形容詞には、ある基準に照らしての相対的な判断・評価を表すという性格のつよい語が多い。その基準に、社会的・客観的な性格のものがあると同時に、個人的・主観的なものもあると指摘し、「このすいかは大きい」という用例は、話し手が自分の経験などから得たすいかの大きさの基準と照らし合わせながら、「大きい」という評価を下している」(p73)と記述している。よって、この基準は話し手(書き手)が(ある程度)世間一般の人と共有しているものであり、「間主観的」⁴な基準であると言える⁵。無論、「間主観的」な基準は話し手(書き手)の主観的な認識・判断が含まれるため、主観性を持っている。本研究ではこの基準を基準Nと呼ぶことにする。また、比較対象の中で、比較の基準となる側を比較基準と称し、比較される側を比較対象と称することにする。

「二項型」程度副詞の中で「もっと」「さらに」のような程度副詞は比較対象と比較基準が必ず同時に基準Nの同じ側に現れなければならないという前提条件を必要とする。本研究はこの類の程度副詞を「程度増加型」副詞と称することにする。

例(1)に合わせて、比較対象(Xで表示)、比較基準(Yで表示)と基準Nの位置関係を図式で示すと次の図1の通りである。

- (1) この本は安い、その本はこの本よりもっと安い。

安さ ←——— X —— Y —— N ——→ 高さ

図1 「もっと」における X、Y と N の位置関係

Xは「その本の安さ」、Yは「この本の安さ」、Nは社会共通の認識として普通考えられる「本の安さ」の基準を表す。Nの左側は社会共通の認識として普通考えられる「安い本」の領域であり、右側は「高い本」の領域である。図1が示すように、「もっと」が用いられる場合、XとYが必ず同時にNの左側に現れなければならない。

これに対して、「ずっと」「はるかに」のような程度副詞は比較対象X、比較基準Yが必ず同時に「基準N」の同じ側に現れるという前提条件を必要としない。佐野由紀子(1998)が指摘しているように、「ずっと」「はるか」のような程度副詞はXとYの程度差が大きいことを話者の「主観的な評価」として述べる程度副詞であり、主として比較対象Xと比較基準Yの差が大きいことに焦点を当てている。よって、本研究では、この類の程度副詞を「程度差強調型」副詞と称することにする。

4 辻(編)(2002)は「個々人の主観は(ある程度)他人との間で共有されるというものである」(p55)とする。

5 この基準はいわゆる社会的標準に相当する。

例(2)に沿って、比較対象 X、比較基準 Y と「基準 N」の位置関係を図式で示すと次の図2の通りである。

(2) その本はこの本よりずっと安い。

安さ ←—— X —— (Y) —— N —— (Y) ——→ 高さ

図2「ずっと」における X、Y と N の位置関係

(Y) は Y の位置が不定で、N の両側に現れうることを表す。つまり、「ずっと」が用いられる時、比較対象 X と比較基準 Y の間の距離が大きいことだけにスポットライトが当たり、基準 N にあまり関与しない。

したがって、「二項型」程度副詞をさらに「程度差強調型」副詞と「程度増加型」副詞に分類することができる。それぞれに属する程度副詞は以下のとおりである。

「程度差強調型」副詞

日本語 かなり ことさら 十分 ずいぶん 数段 数等 ずっと 相当 断然
だいたい 大層 遥かに よほど よっぽど

中国語 倍加 大大 大为 相当

「程度増加型」副詞

日本語 いちだんと いっそう さらに なお なおさら もっと より

中国語 更 更加 更为 还, 益发 愈加 愈益 越 越加 越发 再

3. 2.3 「兼用型」程度副詞の下位分類

時衛国(2009: 46) は量性有無の認定に関しては、「〈一〉、動作・行為・変化などを表す動詞を修飾しうる。〈二〉、上記の動詞修飾時に量的意味を示しうる」と論じている。つまり、量性を持つ程度副詞は動作・行為などを表す動詞を修飾し、量的概念を示すことができる。

(3) a かれはギョウザを | ちよっと / 少し / *割合に / *比較的 | 食べた。

b 他 | 稍微 / 多少 / *比较 / *较为 | 吃了一些饺子。

例(3)では、日本語の「ちよっと」「少し」も中国語の「稍微」「多少」も「食べる/吃」を修飾し、ギョウザの量を示している。一方、日本語の「割合に」「比較的」と中国語の「比较」「较为」は修飾できず、量的概念を示すことができない。したがって、「兼用型」程度副詞は「純粹」程度副詞と「量程度」副詞に分けることができる。

上のテストで判断すると、「純粹類」程度副詞と「量程度類」副詞に属する副詞は以下のとおりである。

「純粹」程度副詞

日本語 比較的 やや 割合に わりと(に)

中国語 比较 还₂ 较 较为 相对

「量程度」程度副詞

日本語 若干 少々 すこし 多少 ちょっと ちよっぴり

中国語 多少 略 略微 稍 稍稍 稍微 稍许 微微 些微

4 おわりに

以上明らかになった比較に関わる程度副詞の下位分類を図式で表示すると、以下の図3が示すとおりである。

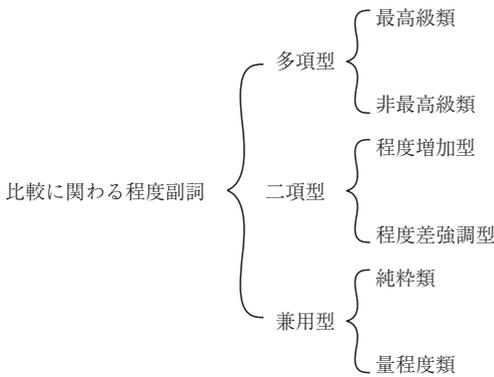


図3 本稿の日中の比較に関わる程度副詞の分類

本稿では、一定の基準で日本語と中国語の比較に関わる程度副詞を統一的に分類してみた。これから、対応する両言語の各グループの程度副詞の意味用法の相違を検討することを今後の研究課題とする。

参考文献

王力 (1954) 《中国现代语法》，中华书局。

佐野由紀子 (1998a) 「比較に関わる程度副詞について」『国語学』195, 国語学会。

時衛国 (2009) 『中国語と日本語における程度副詞の対照研究』, 風間書房。

- 辻幸夫（2002）『認知言語学キーワード事典』，研究社．
- 張誼生（2000）《現代汉语副詞研究》，上海学林出版社．
- 仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』，くろしお出版．
- 林四郎等（2003）『例解新国語辞典 第六版』，三省堂．
- 马真（1988）「程度副詞在表示程度比较句式中的分布状况考察」《世界汉语教学》2．
- 松岡栄志等編（2002）『クラウン中日辞典』，三省堂．
- 森山卓郎（1985）「程度副詞と動詞句」『国文学会誌』20，京都教育大学国文学会．
- 渡辺実（1990）「程度副詞の体系」『国文学論集』23，上智大学国文学会．

（西安工業大学 専任講師）

付記 本稿は、2014年度陝西省教育厅科学研究計画專項項目『日语和汉语比较程度副詞的对比研究』（課題番号：14JK1326）の研究成果の一部である